

ぼうじぼ作り ～子どもたちへ伝えたい、地域に残る年中行事～

○ 「ぼうじぼ※1」とは、わらで編んだ棒のことで、子どもたちが十五夜と十三夜の夜に、家々を回り、「ぼうじぼ、ぼうじぼ、三角畑にそば当たれ※2」などと歌いながら「ぼうじぼ」で地面をたたき、収穫への感謝や翌年の五穀豊穡を願う年中行事に使用します。

（※1）呼び名は地域により「豊年棒」や「ウラデッポウ」などあります。
（※2）歌詞の内容も地域により様々あります。

○ 「ぼうじぼ作り」は、10年以上継続している取組です。協議会発足時、「子どもたちのために何をしようか」と考えていたとき、地域の方からの声が発端となり始まりました。当初は、5、6年生を対象にした取組でしたが、現在は、5年生の総合的な学習の時間と連動しており、「田植え→稲刈り→わらすぐり→ぼうじぼ作り」と年間を通した取組となっています。

○ 子どもたちにとって、慣れない作業の連続でしたが、地域の方々優しく、丁寧に教えてくださり、子どもたちは「ぼうじぼ作り」に集中して取り組むことができました。完成した時、子どもたちと地域の方々、ともに笑顔が溢れていました。

○ 下の写真が「ぼうじぼ」です。叩き方にもコツがあり、実際に「名人直伝の叩き方」も教えていただきました。なお、「ぼうじぼ」は叩き終えた後、実のなる木にかけておくことで、翌年の豊作を願うということにも使われます。



和やかな雰囲気の中で代表児童への直接指導



突然の作業スペースの拡大にも、全体指導の短い時間に、コーディネーター間の連携作業で即対応



子どもたちの真剣さに地域の方々にも熱が入ります



【学校の声】

田植えからぼうじぼ作りまでの一連の活動において、4名のコーディネーターが、その都度準備・連絡に携わって下さり、地域協議会を始め多くのボランティアの方々の協力を得ることができ、子ども達は毎回充実した活動を行うことができました。収穫されたお米は、給食センターを介し、地域協議会の皆様との会食や地域全体にふるまわれます。コーディネーターとの連携を図り、今後も地域とのつながりを深めていきたいと思ひます。

【地域協議会の声】

上河内中央小の行事の数は充実していると感じています。授業内容と連動している行事も多いため、今後も学校と地域、授業と行事などの関係性を維持していけるように手助けをしていきたいと思ひます。そのために、保護者も含めた地域の方々にボランティアへの参加・協力を呼びかけ、「子どもたちのために」より充実した活動ができればと思ひます。

【いいね！】

苗植えから稲刈りまでの体験活動と同時に、地域に残る収穫の喜びや来年の豊作を願う年中行事を一連の流れの中で体験することができるこの取組は、学校と地域の良い連携の事例としてだけでなく、郷土を愛する心や地域の伝統文化の継承も体感できる大変有意義な取組である。

